

“ものづくり”のスマート(考える)工場への転換、それはドイツ発“Industrie4.0”が中小企業を含む世界の産業界の潮流となり日本でも動き始めました。この時期に(公財)横浜企業経営支援財団(IDEC)主催、横浜日独協会が共催して、最適の講師及びテーマのセミナーが、10月5日横浜情報文化ホールは約100名の参加者を迎えて行われ、地元の中企業のほか、東京からも多くの関係企業の方が来られました。このセミナーの主目的は、地域中小企業を対象にドイツでの「Industrie4.0」の現状を伝え、且つわかり易く解説し、その潮流への対処・適用を経営者に知って貰うことでした。

基調講演は、ドイツ・バイエルン州駐日代表部 Dr.C.Geltinger 代表が、「ドイツ製造業の国際競争力を回復させるため産・学・官一体となり議論の末、国家プロジェクトになった」経緯を語られました。ドイツの中小企業でもまだ緒についたばかりであり、挑戦課題や中小企業に重点をおいた「インダストリー4.0」育成策などを披露されました

次に中小企業への技術コンサルタントを主な事業とする㈱KMC佐藤社長は、中小企業の加工サイクルタイムの短縮など生産性向上実例を紹介、また製造業の次世代への継承・発展の最重要事項は「人材育成」であると熱いプレゼンテーションが行われました。

最後の講演は、「インダストリー4.0」のドイツにおけるコア会社であり、その日本法人トルンプ(㈱)(横浜日独協会法人会員)の100%子会社である㈱エフエー・サービスのA.マール氏が、「トルンプ社のインダストリー4.0」と題してトルンプ社が具体的にどのように生産性を上げているかをスライドで解説されました。

は、パネル方式による質疑応答が行われ、3名の講演者に加え、当協会の山岸理事(元 帝人副社長)がパネリストの一人として登壇。今回の参加者には、この分野の専門家や、横浜市国際局・経済局からも、また横浜国大は3教授がセミナーに、学長も懇親会に参加され、「なかなか立派なセミナーであり、参考になる点が多々あった」との賛辞を頂きました。IDECの牧野理事長はもとより、関係各位のご高配とご尽力相俟って、当協会も地域中小企業へ海外情報提供を通じ、企業経営発展のために少しでも貢献できたことを誇りに思うとともに、ご同慶の至りと申し上げます。



基調講演 Dr.Geltinger



日本語のスライドで解説される
ゲルティンガー代表



パネリスト 左から Dr.Geltinger
佐藤社長 マール氏 山岸理事



パネル討論に顔かれる(手前)
大槻最高顧問(元 富士通副社長)



(公財)横浜企業経営支援財団
IDEC 牧野理事長ご挨拶



横浜国大 長谷部学長



懇親会はドイツ樽ビールで乾杯



JDGY 早瀬会長 ご挨拶



関係者集合写真